

# 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月10日

事業ID:2023004553

事業名:新潟県佐渡市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(2年目)

団体名:一般社団法人潟上未来会議

代表者名:代表理事 板垣 徹

TEL:0259-24-6040

事業完了日:2024年3月31日



## ■契約時

事業費総額	:	7,200,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	7,200,000 円

## ■事業完了時

事業費総額	:	7,201,720 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,720 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,200,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1.事業内容

### ■事業内容1

#### (1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.新潟県佐渡市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営  
(1)期間:2023年4月1日~2024年3月31日(週4日、平日は8時から19時まで、土曜日は10時から16時まで開所)  
(2)場所:新潟県佐渡市  
(3)対象:20名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心)  
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

#### (2)事業完了時の事業内容(実績)

1.新潟県佐渡市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営  
(1)期間:2023年4月1日~2024年3月31日(平日週3日、8時から17時まで(必要により19時まで延長可能、土曜日10時から16時まで開所))  
(2)場所:子ども未来舎りぜむ(新潟県佐渡市新穂潟上85-1)  
(3)対象:3月31日現在登録者数小学生89名、中学生11名、未就学児21名(平均利用者数:月水金曜日小学生を中心に17.8名、土曜日21.9名、合計平均18.8名)  
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもの「やりたい」という意欲と1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援した。また寄付金支援事業の助成もあり、県外一泊旅行や湖水遊び、りぜむ祭りなどのイベントにより、子どもたちに多様な経験を提供した。

#### (3)成功したこととその要因

平日は地元小学校の子どもたちが中心で、土曜日になると地元だけでなく佐渡島内から様々な子どもたちが来ている。また、学校へ行っていない子供たちの居場所にもなっている。このような子ども中心の常設の居場所は佐渡島内にほかになく、子ども未来舎りぜむの存在意義が子どもたちや保護者・行政関係者など多くの人びとから認識されるようになったことが、成功要因と考えられる。

#### (4)失敗したこととその要因

## (5)事業内容詳細

1. 新潟県佐渡市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営  
運営体制:4月1日から常勤スタッフが就業し、パートタイムスタッフ2名とボランティアスタッフ2~4名体制で運営した。開所日及び時間は月水金が8:00~17:00(スタッフは8:00~18:00)、土が10:00~16:00(スタッフは9:00~17:00)とした。なお、毎週土曜日16:00から18:00には、ボランティアスタッフも参加して、子どもの状況や課題などを話し合う定例ミーティングを実施している。  
利用状況:学校へ行けない子どもが来ることも想定して8:00からの体制をとっており、朝から数名の子どもが昼食持参で来ている。学校へ行くようになった子もおり、最近では2~3名になった。15:00過ぎにはランドセルを背負った地元の学校帰りの小学生たちが来る。学校帰りの子どもたちと、昼前からいる違う学校の子もたちが一緒に遊ぶ。17:00が近づくと、ぼつぼつ家庭からのお迎えが来る。こうして1日が終わる。土曜日は朝から三三五五集まってきて、室内や外で遊び始める。お昼はスタッフ手づくりの昼食(300円のマテリアル費をもらう)をみんなでいただく。昼ごろから午後の早い時間帯がピークで、大人子ども合わせて20人を超えるにぎやかさとなる。土曜日だけ来る親子が多くあり、1年たっても初めてきたという人がいる。利用登録は121名、3月末までの利用者数は1日平均18.8人(平日17.8人、土曜日21.9人)。時間延長が必要な事例はなかった。  
また、寄付金支援事業の助成もあり、多くのイベントを実施することができた。【4月お花見、5月タケノコ掘り、田植え、6月ホテル祭りわたあめ屋出店、7月湖水遊び、8月県外一泊旅行(群馬・おむすび堂さんとの交流)、9月りぜむ祭り、10月ハロウィンパーティー、11月秋祭り、12月クリスマス会、1月餅つき大会、とうらやさん(どんと焼き)、3月子どもカラオケ大会、子どもカフェ】

## 2.契約時事業目標の達成状況:

### (1)助成契約書記載の目標

- ・2024年3月31日までに一日あたりの子どもの利用者数を15名にする
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・子どもの成長と学びを促す定期的なイベントを事業期間内に12回実施する

### (2)目標の達成状況【700文字以内】

- ・2024年3月31日までに一日あたりの子どもの利用者数を15名にする  
→2024年3月31日現在、1日平均利用者数(子ども)18.8名(年度平均)となった
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供  
→漁業者の協力による湖水遊び、多くの地域(約200名)の方が参加したりりぜむ祭り、地域のボランティアの皆さんと一緒に防災訓練を兼ねたりりぜむ秋祭りなどを実施した。
- ・子どもの成長と学びを促す定期的なイベントを事業期間内に12回実施する  
→4月 お花見(潟上温泉へ)  
5月 タケノコ掘り(湖鏡庵へ)、田植え(りぜむ水田)  
6月 わたあめ屋出店(第18回潟上温泉ホテル祭りへ出店)  
7月 湖水遊び(加茂湖で水泳、シーカヤック・ヨシ船体験)  
8月 県外一泊旅行(群馬・おむすび堂さんとの交流)  
9月 りぜむ祭り(りぜむ会場、スイーツ屋さん、子ども鬼太鼓など)  
10月 ハロウィンパーティー(潟上地内を訪問)  
11月 りぜむ秋祭り(防災訓練<<炊き出し訓練>>を兼ねて、潟上集落・雪椿の会と一緒に)  
12月 クリスマス会(コンサート、寸劇、サンタさんプレゼントなど)  
1月 餅つき大会、ついた餅を使ったまゆだまづくり、とうらやさん(どんと焼き)  
3月子どもカラオケ大会、子どもカフェ(子どもたちがメニューを決めて、つくったスイーツを提供)

### 3.事業実施によって得られた成果

昨年度は1月16日からの2か月半だけの事業期間であったが、今年度は4月1日から丸々1年間の事業実施であった。

事業開始前には、はたしてどれだけ子どもたちが来るのか心配であったが、地元小学校の子どもたちを中心に、土曜日は島内各地から親子連れが来るなど、子ども未来舎りぜむのことが口コミで徐々に広がり、その独自の価値が認識されるようになった。独自の価値とは、子どもの自由や主体性を最大限尊重し、子どもたちの「やりたい」の実現を応援する、子ども中心の居場所を実現していることである。

たとえば9月に開いた「第1回りぜむ祭り」では驚くほどの多くの方が訪れ、こんな場所が他にはないことを実感させられた。

そんな取り組みを進める中で、子どもたちの成長も実感させられた。りぜむは子どもたちの自由を尊重する立場から、ゲーム機の持ち込みも禁止していない。しかし何かルールが必要ではないか、と子どもたちとの「みんなの会議」で話し合い、「平日の放課後や昼食時間帯はゲームをしない」などの自主ルールをつくった。そうしたら、その決定の直後から子どもたちが自主的にそのルールを実践し始めた。自分たちで決めたルールだから、みんなで守ろう、という姿勢である。

また、年度末には「子どもカフェ」を子どもたちの発案で実施したが、メニューや価格、役割分担などを子どもたちで決め、当日は朝8時に集合して任務に就き、夕方の片づけまでを子どもたち中心でやり切った。

このように、子ども未来舎りぜむは地域の子供たちの成長を支え、子どもたちにとってなくてはならない第三の居場所としてしっかりと根付き始めている。

また、不登校で平日朝から来ていた子供たちの何人かは学校へ行くようになり、平日放課前のりぜむは少し寂しくなった。時々、「りぜむ卒業生」が遊びに来てくれるときは、本当に懐かしくうれしい。

このように、数値ではない価値が子ども未来舎りぜむにはある、と実感した1年間であった。

### 4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

コミュニティモデルであるので特に課題を抱える子どもを集めるという考え方はなかったが、課題の早期発見とその解決に向けて他の機関等との連携を図るという点では、いろいろと課題を感じる1年間であった。

- ・他の子どもとのトラブルでりぜむへ来られなくなった子。学校や市の子ども若者センターと情報交換。
- ・他の子どもとうまく交流できず、いじめにあった体験を持ち孤立を感じる子。学校と話し合い、注意して見守ることを確認。
- ・学習障害のある子ども。学校や教育委員会担当者と話し合い、タブレット使用についてりぜむが支援を行うこととした。
- ・少し離れたところにある放課後デイサービスの子供たちの受入。月一回、数名の障害のある子どもたちが遊びに来ることが定着。りぜむの子供たちとの交流が少しずつ始まっている。

とはいえ、子どもの抱える課題の発見はそれなりに可能でも、それにどう対応するか難しい案件が多い。その意味で、子どもの状況への理解の深化やスタッフのスキル向上への努力が必要と感じている。

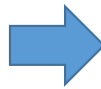
### 5.事業成果物

#### (1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

#### (2)事業完了時の成果物名称

1完了報告書  
本報告書による



#### (3)未作成となった要因

#### (4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://nippon.zaidan.info/nf/lib/nf/libServlet/nf/lib1040?>

# 2023年度 収支計算書

2023年4月1日から 2024年3月31日まで

(単位:%)

団体名: 一般社団法人潟上未来会議

契約書(記3)に記載の補助率

7,200,000

事業名: 新潟県佐渡市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(2年目)

(収入の部)

(単位:円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B) 自動計算	受入済額 (C)	未収額	助成金返還見込額
				自動計算(A-C)	自動計算(A-B)
① 日本財団助成金収入	7,200,000	7,200,000	7,200,000	0	0
② 自己負担	0	1,720	1,720		
③ 収入合計	7,200,000	7,201,720	7,201,720	0	0

(支出の部)

(単位:円)

費目	日本財団承認済の 予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額	補足説明、備考
				自動計算(y-z)	
諸謝金費	700,000	632,000	351,500	280,500	
給食費	144,000	160,593	160,593		
車両費	65,000	65,633	65,633		
消耗什器備品費	418,800	379,030	378,371	659	
水道光熱費	300,540	270,730	247,694	23,036	
通信運搬費	80,400	78,737	72,650	6,087	
印刷費	44,000	43,450	43,450		
保険料	200,200	195,012	195,012		
人件費	5,247,060	5,376,535	5,155,461	221,074	
支出合計(端数調整前)	7,200,000				
端数調整欄	-				
④ 支出合計(端数調整後)	7,200,000	7,201,720	6,670,364	531,356	